

ひろがる価値観 ③

甲府市の私立女子校、山梨英和中学高校の体育館。剣道部は練習で、部員たちが決めた目標を壁に掲げる。

「華進打破」。一輪でも東にしても華やかな花のように、個人戦でも団体戦でも力を出し切ろう……。そんな思いを込めた造語だ。月1回ずつリーダー会と部会を開き、翌月の練習や試合について話し合う。日々の練習内容は主将で高校

部活 生徒が決める



剣道部の目標「華進打破」を掲げ、練習メニューも部員たちで決めている（甲府市の山梨英和中学で）

3年の響場友菜さん(18)が丹念にノートに書き留める。防具修理の注文や活動費の管理も生徒が行う。自分たちで日程やメニューを決めているから、責任を持って頑張ろうという気になる」と部長で高3の三浦末乃梨さん(17)は話す。

剣道部顧問の堀江なつ子教諭が部の運営をできるだけ生徒に委ねるようにしたのは、約2年前。「何でも教師が決めてしまうと、主体性を育む場にはならない」。体育の研究会で、生徒主導の部活を提案する神谷拓・関西

大教授(44)に助言を受けたのがきっかけだ。

指導法を見直した後、堀江教諭は忘れがたい経験をした。県大会の団体戦を前に、通常は最後に登場する主力の3年生を先に出し、「確実に勝ち上がろう」と発案した。ところが、部員に疑問を呈されたのだ。

「自分たちの『華進打破』と違う気がする。勝つまでの過程こそが大切だ」。仲間同士で「考える力」に「私が学ばされた」と、堀江教諭は振り返る。

中学高校の学習指導要領は、部活を生徒の「自主的、自発的な参加」による課外活動と位置づける。だが、実感はどう

か。顧問の指示を絶対視する「上意下達」の構図を変えられるかが問われる。

埼玉県春日部市立豊野中バスケットボール部の指導法も、注目を集める。女子は全国大会連覇の経験があるが、放課後の練習は30分〜2時間程度で、男女が譲り合って体育館を使う。

公立校の限られた条件で効果を上げようと、練習内容を決め、下級生を指導するのは生徒たち自身だ。試合で出た課題を指摘し合い、新たな工夫も生まれる。

「部活を通して自主性や判断力を身につけ、仲間とともに成長する。社会に出た時にも大事な力になる」。顧問の田中英夫教諭(60)は強調した。